

CUD マーク取得の手引き



カラーユニバーサルデザインとは

色覚（色の感じ方）は、味覚や嗅覚と同じように実は人それぞれに違います。このため、見分けやすくするためにつけられた色づかいが、かえって見分けにくくなり、情報を正確に受け取れないなど困っている人（色弱の人など）たちがいます。

また、一般的な色覚の中には疾病などにより他の人と色の見え方が異なるケースもあります。誰に対しても正しく情報が伝わるように、色の使い方や文字の形などにあらかじめ配慮することを「カラーユニバーサルデザイン（以下 CUD）」といいます。

ユニバーサルデザインとは：

年令、国籍、身体的な状況などを問わず、すべての人が快適で安全に暮らせるように、まちづくりやものづくり、サービスなどにあらかじめ配慮する考え方です。

Contents

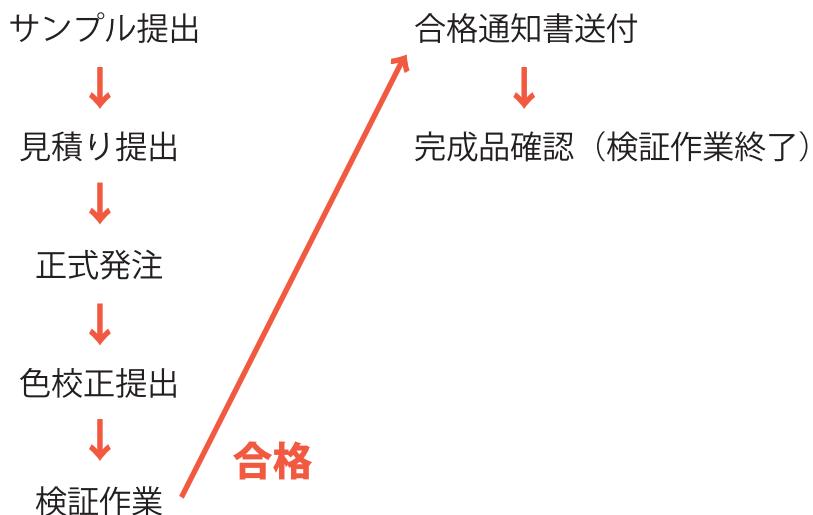
CUD マーク取得について	1
色の感じ方の違いを理解しよう。	5
カラーユニバーサルデザインの3つのポイント	9
カラーユニバーサルデザインの進め方	14
カラーユニバーサルデザインの実践事例	15
カラーユニバーサルデザインチェックリスト	裏表紙

CUDマーク取得について

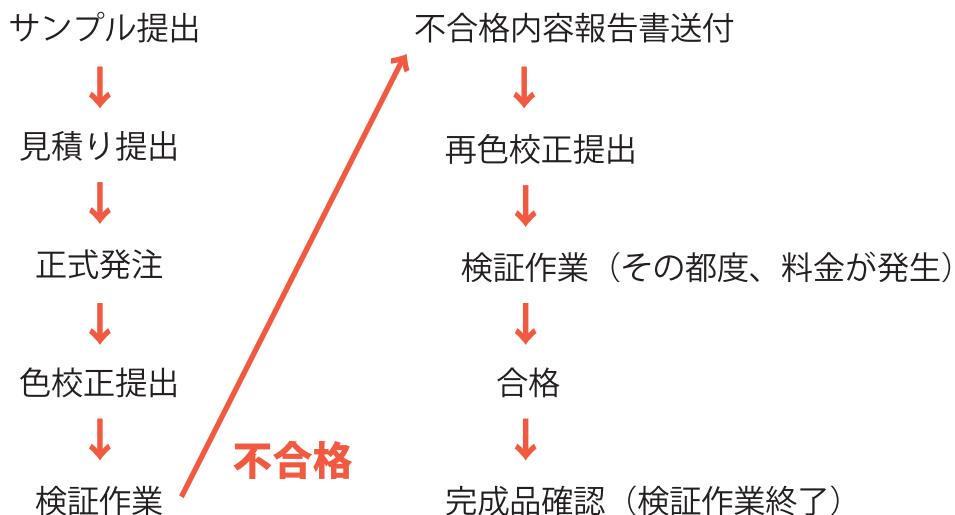
NPO法人北海道カラーユニバーサルデザイン機構(以下北海道CUDO)では、人によって色の感じ方が異なることに配慮し、情報を正しく伝えるためにカラーユニバーサルデザインの普及・啓発活動を行ってきました。この手引きでは、CUD検証の概略とCUDに取組む際、事前に配慮すべきポイントについて解説していきます。

● CUD マーク取得の流れ（例：印刷物）

【合格の場合】



【不合格の場合】



● 検証に関する注意事項

- 検証対象物は、実際の仕上り（色）と同程度のものをご提出下さい。
- 完成品が認証時のものと著しく異なっていた場合には、認証を取消したり回収をしていただくケースもございます。
- CUD検証合格後のデザイン変更は、原則として認められません。デザイン変更の場合は、新たな検証扱いとなります。（有償）（※印刷物のみならず、全ての検証物が対象です）
- CUD検証合格品の完成品は、速やかに提出下さい。完成品を事務局で相違ないか確認し、一連の検証作業が終了となります。

● CUD検証費用（印刷物の基準）

ページ数	検証費用	再検証費用	
		初回	2回目以降
1P	40,000	12,500	2,500
2P	40,000	12,500	2,500
3P～8P	45,000	25,000	5,000
9P～24P	60,000	50,000	10,000
25P～64P	80,000	50,000	10,000
65P～	80,000 +@650	50,000 +@650	10,000 +@130

※検証費用は目安です。地図などの難易度が高い検証は、この限りではありません。

その都度、見積りをさせていただきます。ご不明な点は、事務局までお問合せ下さい。

● 差異確認について

以前に検証合格した製品のマイナーチェンジとなる製品にも、継続してCUDマークの表示をご希望の場合、変更点の分かる資料を提出下さい。検証が必要になるかどうかを事務局にて判断いたします。新たな検証が必要ない場合、差異確認費用として20,000円の費用が発生します。

● 印刷物検証に伴うPDFなどの電子文書の連続的な検証について

○検証に合格した印刷物をPDFなどの電子文書として作成しCUDマークをそのまま表示する場合は、紙媒体の色表現（CMYK等のインク等における減法混合）と電子文書の色表現（RGB等の光における加法混合）は大きく原理が異なるため、改めての検証が必要です。

○印刷物においてCUDマークを取得し、同じ内容でPDFなどの電子文書化したものについてCUD検証を実施していない場合は、電子文書へのCUDマーク表示はできません。マークを外していただくか、後述のCUD未承認マークと説明文章を表示いただくことになります。

○検証費用見積書を作成しますので、事前にサンプルを提出ください。検証物によって異なる検証内容（手順・時間・専門性）から作業量と費用を積算させていただきます。なお、概ねの費用の概算は、下記の基準の通りです。

● 連続的に行う同一データのCUD検証費用（印刷物の基準）

ページ数	検証費用	2回目以降再検証費用
1P	12,500	2,500
2P	12,500	2,500
3P～8P	25,000	5,000
9P～24P	50,000	10,000
25P～64P	50,000	10,000
65P～	50,000 +@650	10,000 +@130

※検証費用は目安です。地図などの難易度が高い検証は、この限りではありません。

その都度、見積りをさせていただきます。ご不明な点は、事務局までお問合せ下さい。

※上記の価格は連続的に検証を行う際の参考価格であり、以前に認証したもの新たに検証する場合は、新規の扱いとなり2ページの価格が基準になります。

● CUD未承認マークと説明文章サンプル



本報告書は印刷物においてCUDマークを取得しています。PDF版の画面表示やプリントでは色再現ができませんのでご注意ください。

●機器類・施設（サインなど）のCUD検証について

機器類、施設（サインなど）のCUD検証は、事前に予備検証を実施します。

仕様などの詳細を打ち合わせし、その都度、見積りをさせていただきます。

また、機器類や施設のサインなどは検証実施期間も長くなるケースも多いので、スケジュールも事前に打ち合わせの上、進めます。

●ホームページのCUD検証について

【必要となる書類】

- 該当HPの色使いに関するガイドライン
- サイトマップとガイドラインの対応表
- ガイドラインが適応されたWEBデータ
- 該当HPの制作において、ガイドラインの遵守を記した書面

【サイト検証条件】

- 下記費用は、検証時間が2時間以内の案件を対象
- インターネット経由による検証
- 液晶ディスプレー（D65キャリブレート済）
- ブラウザは、インターネットエクスプローラーまたはサファリにて検証

【サイト検証費用（目安）】

書類関係の検証費用	2万円
サイト検証費用	12万円
合計	14万円

● CUDマークとは

CUD検証に合格した製品は、その証としてCUDマークを表示することができます。

CUDマーク見本(検証合格年右上表示)



CUDマークはNPO法人CUDO・NPO法人北海道CUDOにより認証された製品に表示できるマークです。

CUDマーク発行対象物

- ・印刷物：会社案内、CSRレポート、地図（路線図含む）、カレンダー、パッケージ、教科書等
- ・機器類：LED、機器、WEB、ソフトウェア、映像等
- ・公共物：施設、建築物、サイン類
- ・その他：玩具、文具、学習教材、調理器具等

● CUDマーク表示のメリット

- ・社会に提供する製品・サービス等の色づかいに関して、安心して使用できる製品であることの証明となり、また、事故やクレームなどを未然に防ぐこともできます。
- ・CUDによる付加価値をクライアントに提供することで顧客満足度を高めることができます。
- ・「人にやさしい社会づくり」に貢献している企業姿勢を示すとともに、CUDを取り入れていない競合製品に対し差別化を図ることができます。

● CUD 検証とは

検証対象物の色使いが「カラーユニバーサルデザインの3つのポイント※」に適合しているかを色差6段階で評価し、合否を判定します。検証は、CUDOに登録されているCUD検証員により行います。

合格	色差6段階評価	不合格
6→とてもよくわかる	3→わかりにくい	
5→よくわかる	2→ほとんどわからない	
4→わかる	1→全くわからない	

※全ての箇所が、評価4以上にならないと、合格にはなりません。

※「カラーユニバーサルデザインの3つのポイント」については、7ページをご覧ください。

● CUD 検証員について

CUDOでは、色覚タイプがP型強度・D型強度、C型の人をCUD検証員として登録しています。検証員は、「CUD検証員適性検査」あるいは、「眼科による色覚精密検査」を受け、さらに、評価を行うための講習・訓練を受けています。

CUDOの呼称	色覚タイプ		頻度（男性）	
一般色覚者	C型 (Common)		約 95%	
色弱者	P型 (Protanope)	強度	約 1.5%	
		弱度		
	D型(Dueteranope)	強度	約 3.5%	
		弱度		
T型 (Tritanope)		約 0.001%		
A型 (Acromatic)		約 0.001%		

「一般色覚者・色弱者」「C型・P型・D型・T型・A型」という呼称はCUDOが提案するものです。従来は、一般的な色覚の人は「色覚正常」、他の色覚の人は「色盲・色覚異常・色覚障害など」と呼ばれていました。

● CUD 検証結果

CUD検証結果通知書をもってお知らせいたします。
合格製品には「CUDマーク」の表示許諾と「CUD検証合格証」を発行いたします。

● カラーユニバーサルデザインのチェックツール

一般的な色覚の人が色弱の人の色の見分けにくさを想像するのは困難です。その手助けとなるツール（有償・無償等）があり、CUDOでは、このツールを「カラーユニバーサルデザインのチェックツール」と呼んでいます。用途に合わせて使い分けるとよいでしょう。（各社のシミュレーション機能・動作等についてCUDOが保証するものではありません。）

当事者による検証が必要な理由

これらのツールは、色弱者（強度）の「色の見分けにくさ」を再現したものであり、色弱者が感じている色を再現したものではありません。色の見え方は、PCのディスプレイ環境や使用した色の面積、照明の明るさなどによって変わるために、ツールを使用して選んだ色であっても、色弱の人には見分けにくい場合があります。このようなことから、CUD検証は、当事者による検証が必須となります。

色の感じ方の違いを理解しよう。

色弱の人は日々の生活の中で、さまざまな場面で困っています。

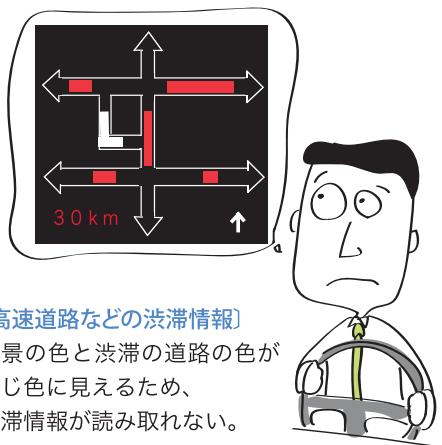
一般的な色覚の人も色弱の人の色の感じ方を理解した上で、色の使い方や文字の形などにあらかじめ配慮することが大切です。

●通勤・通学



〔カーナビ〕

車が進むべき道路の色と他の道路の色が同じ色に見えるため、どの道を進めばよいかわからない。また、左と右の地域の色が似た色に見えるため、地域が変わっても変わったことに気がつかない。



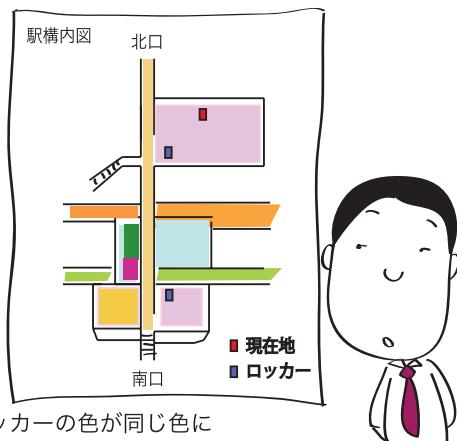
〔高速道路などの渋滞情報〕

背景の色と渋滞の道路の色が同じ色に見えるため、渋滞情報が読み取れない。



〔雑誌やチラシ(印刷物)〕

背景の色と文字の色が同じ色に見えるため、何が書いてあるのかわからない。



〔駅構内図〕

現在地とロッカーの色が同じ色に見えるため、現在地がわからない。



〔路線図〕

路線の色が同じ色に見えるため、どの電車に乗ってよいのかわからない。

●職場・学校



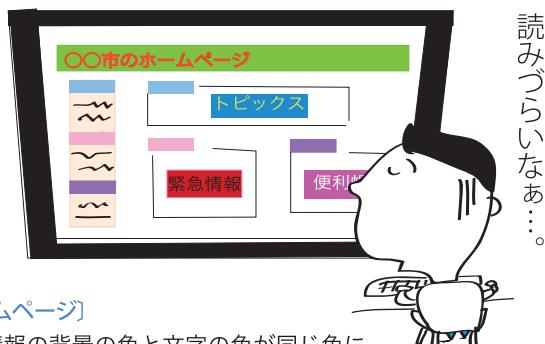
[カレンダー]

平日の色と祝祭日の色が同じ色に見えるため、祝祭日を平日と間違えてしまうことがある。



[電話のランプ]

通話中のランプと保留中のランプが同じ色に見えるため、ランプを色の名前で言われてもわからない。



[ホームページ]

緊急情報の背景の色と文字の色が同じ色に見えるため、何が書かれているかわからない。



[黒板]

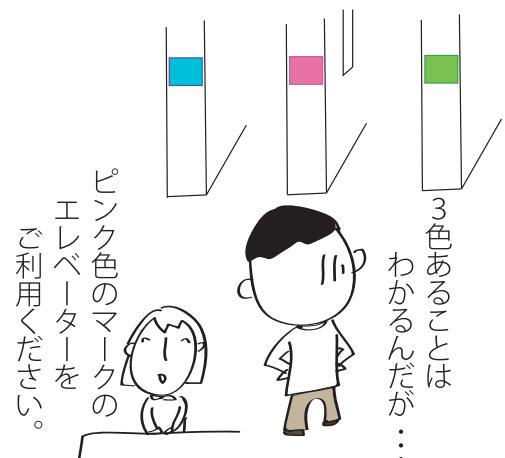
黒板の色と赤チョークの色が、同じ色に見えるため赤チョークで書いた文字は読めない。



[名刺]

名刺の背景の色と連絡先の文字色が同じ色に見えるため連絡先がわからない。

●外出先



[案内]

色の名前とエレベーターの色の対応ができないため、案内された色がどのエレベーターかわからない。

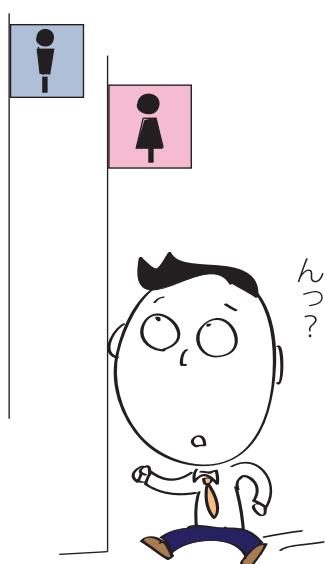
インフォメーション	
5	会議室
4	C課
3	B課
2	A課
	総合窓口

B課は何階だろう?



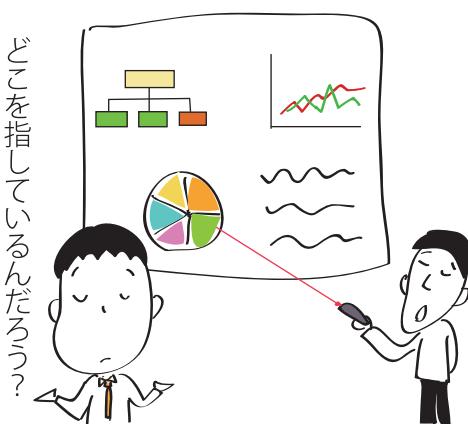
[インフォメーション(サイン)]

背景の色とB課の文字の色が同じ色に見えるため、B課の文字が読めない。



[トイレのサイン]

男子トイレのマークの色と女子トイレのマークの色が似ているため、急いでいるときには間違えることがある。



[レーザーポインタ]

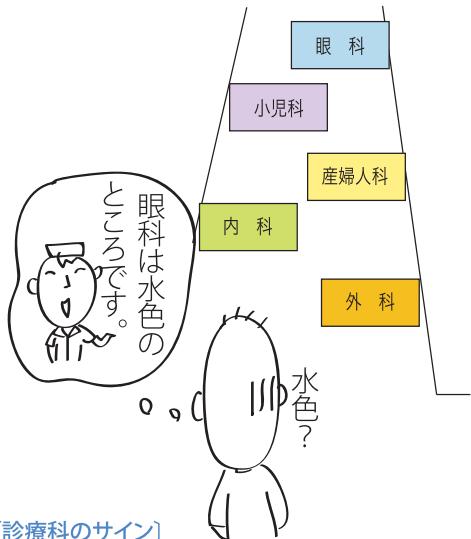
赤色のレーザーポインタは全く見えないため、どこを指しているのかわからず会議やセミナーの内容が理解できない。



[パッケージ]

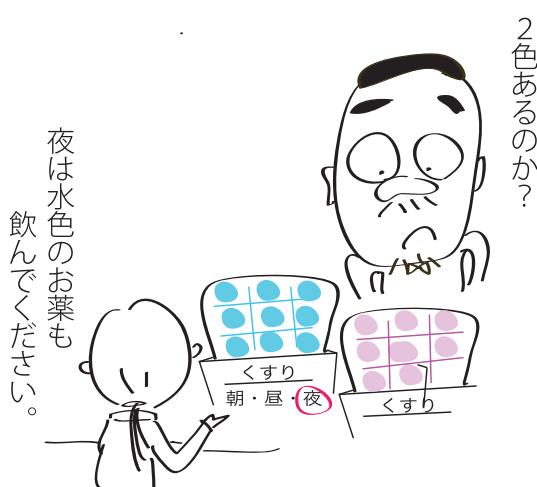
背景の色と文字の色が同じ色に見えるため、作り方や注意書きの文字に気がつかない。

●家庭



[診療科のサイン]

診療科別に色分けをしているが同じ色に見える色があるため、色だけを頼りにすると間違えてしまう。



[くすり]

薬の2色が同じ色に見えるため、袋から出すとわからなくなる。



[洋服]

色の名前が書かれないと何色かわからない。



[生活用品:シャンプーとリンス、歯ブラシ]

シャンプーとリンスのボトルの色が同じ色に見えるため間違えて買うことがある。

歯ブラシは家族で同じ形のものを使うため、色の違いがわからず間違えることがある。



[LED]

LEDの赤色は点いているのか消えているのかわからない。LEDの色を橙・黄緑・緑で分けられていても、同じ色に見えるため、情報がわからない。

カラーユニバーサルデザインの3つのポイント

カラーユニバーサルデザインで最も大切なことは、誰にでもわかりやすい色を使うことです。

「カラーユニバーサルデザインの3つのポイント」に配慮することにより、できるだけ多くの人に情報が正確に伝わるようになります。

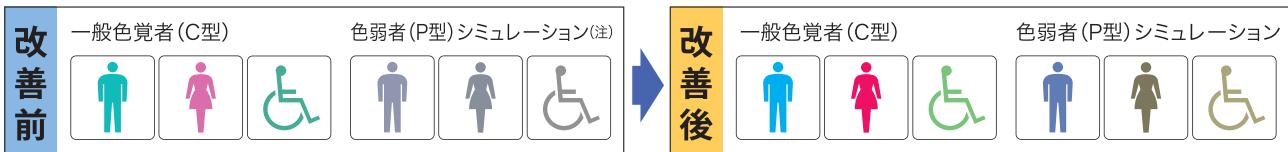
カラーユニバーサルデザインの3つのポイント

- a できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ。
- b 色を見分けにくい人にも情報が伝わるようにする。
- c 色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする。

a できるだけ多くの人に見分けやすい配色を選ぶ。

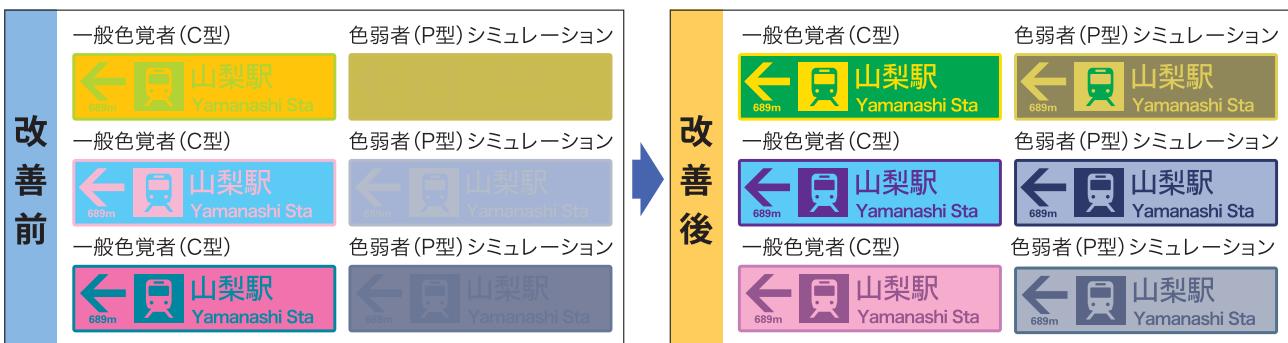
①色を変える

色を組み合わせるときは、彩度は「高い色」と「低い色」の組み合わせ、明度は「明るい色」と「暗い色」を組み合わせると見分けやすくなります。彩度の低い色（パステル調）同士を組み合わせると、色弱者にとっては色の違いがわからなくなります。



②色の濃淡・明暗の差(コントラスト)をつける。

背景の色と文字の色に明暗の差をつけると見分けやすくなります。また、同色系でも濃淡の差をつけるだけでも見分けやすくなります。イメージを変えたくない場合に、有効な方法です。

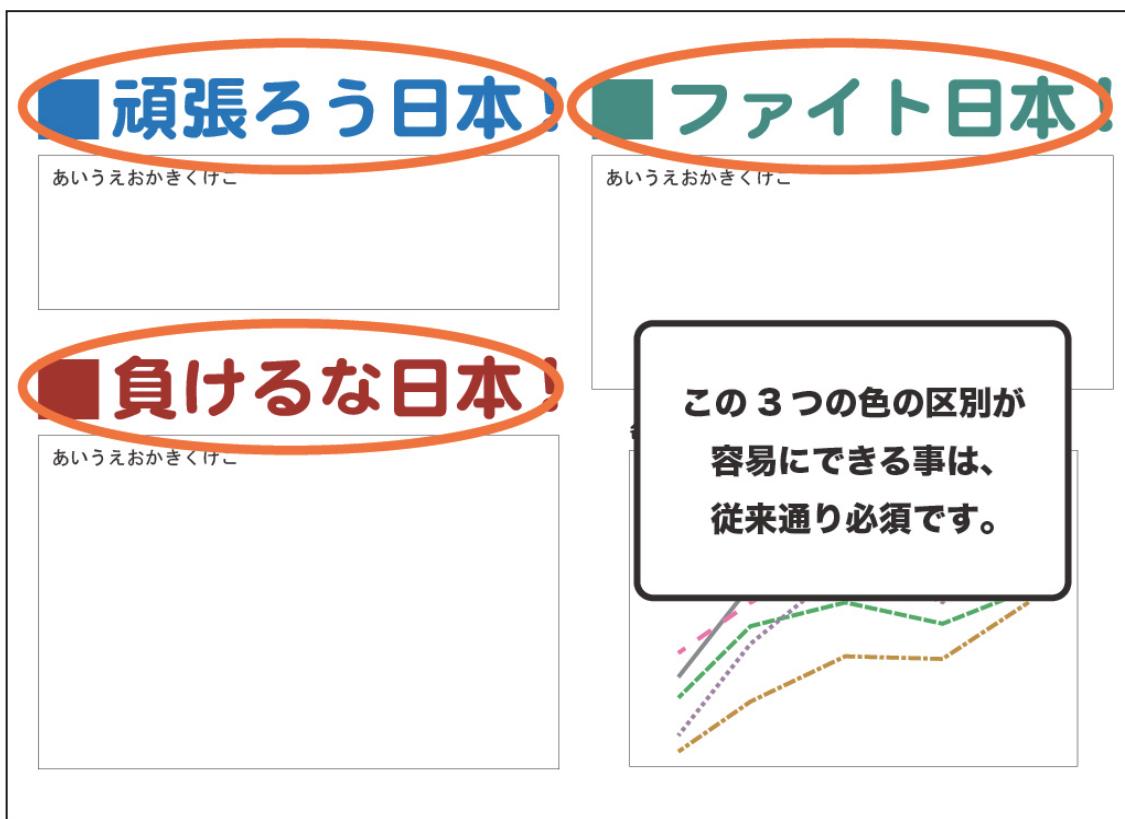


上段→色に明暗の差をつけた組み合わせ例
中・下段→色に濃淡をつけた例

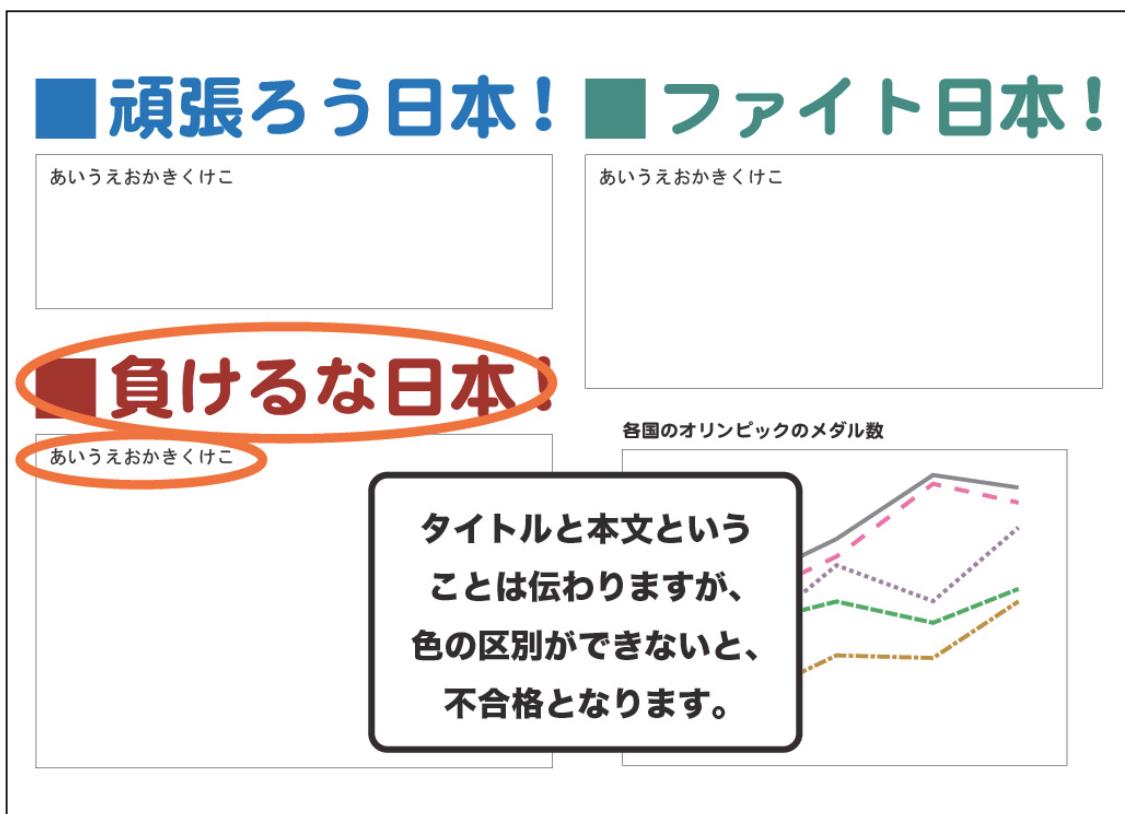
(注) シミュレーションは、コンピュータによって色弱者(強度)の色の見分けにくさを再現したものです。

③認証基準の参考例

事例A



事例B



事例C

■ 頑張ろう日本! ■ ファイト日本!

あいうえおかきくけこ

■ 負

あいうえおかきくけこ

線種が違うので
情報は伝わりますが、
色の区別ができないと
不合格になります。

色以外の情報があっても、
混同する色がなく、
色の区別ができるここと、
がポイントです。

各国のオリンピックのメダル数

各國のオリンピックのメダル数

事例D

■ 頑張ろう日本! ■ ファイト日本!

あいうえおかきくけこ

■ 負

あいうえおかきくけこ

このタイトルの文字と
グラフの線の色が混同しても
カテゴリが違うので
問題ありません。

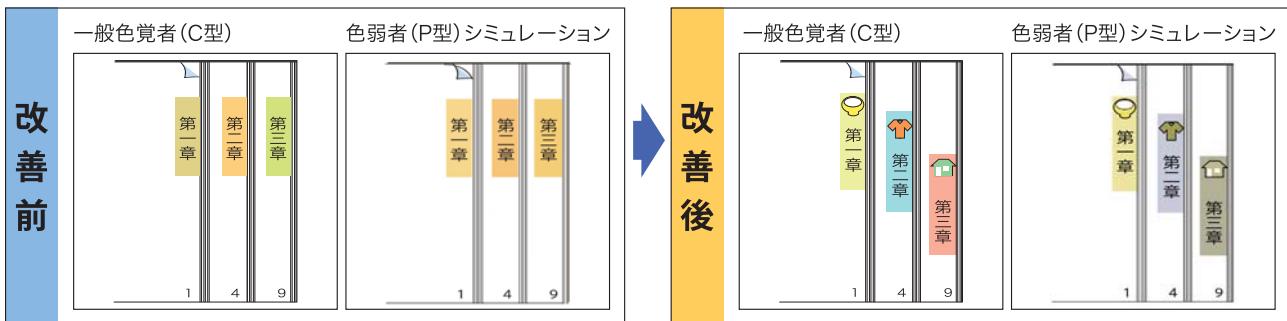
オリンピックのメダル数

オリンピックのメダル数

b 色を見分けにくい人にも情報が伝わるようにする。

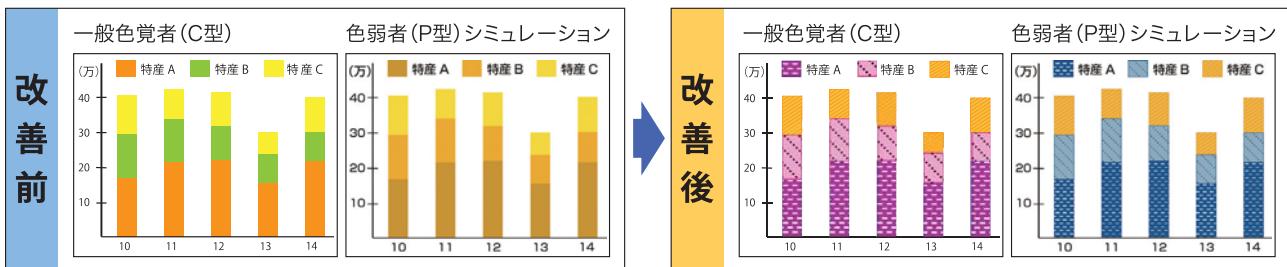
①形を変える

形を変えたりマークを併用すると、色を見分けにくい人にも情報が伝わりやすくなります。形やマークの大きさは、できるだけ大きくし色の違いがわかりやすいように配慮します。インデックスなどの場合は、表示する位置を変えると、より情報が伝わりやすくなります。



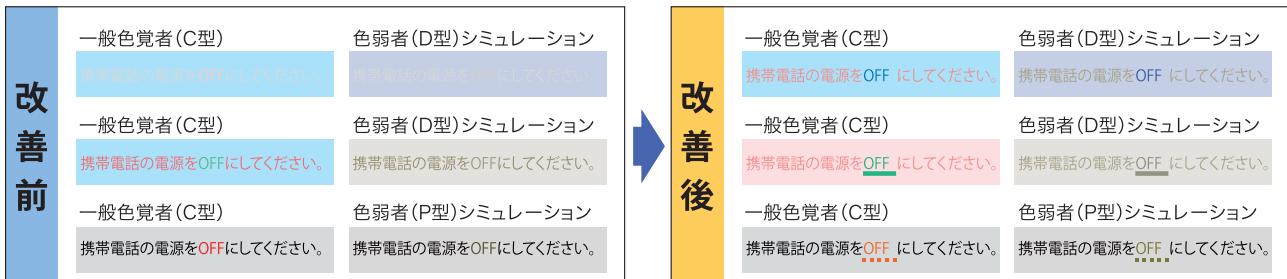
②ハッチング（模様）をつける

地図やグラフなど、塗りつぶす面積が広い場合は、斜線やドットなどのハッチングをつけると、色の違いが見分けられない場合でも、情報が伝わりやすくなります。ハッチングをつけた場所は目立たせる効果があるため、使い方には注意が必要です。



③文字や線を太くする。

色の見分けは、細い線など面積が小さいほど、色弱者や高齢者にとってはわかりにくくなり、太い線など面積が大きいほど色を感じやすく、色の違いがわかりやすくなります。形を変えることなどを併用するとよりわかりやすくなります。

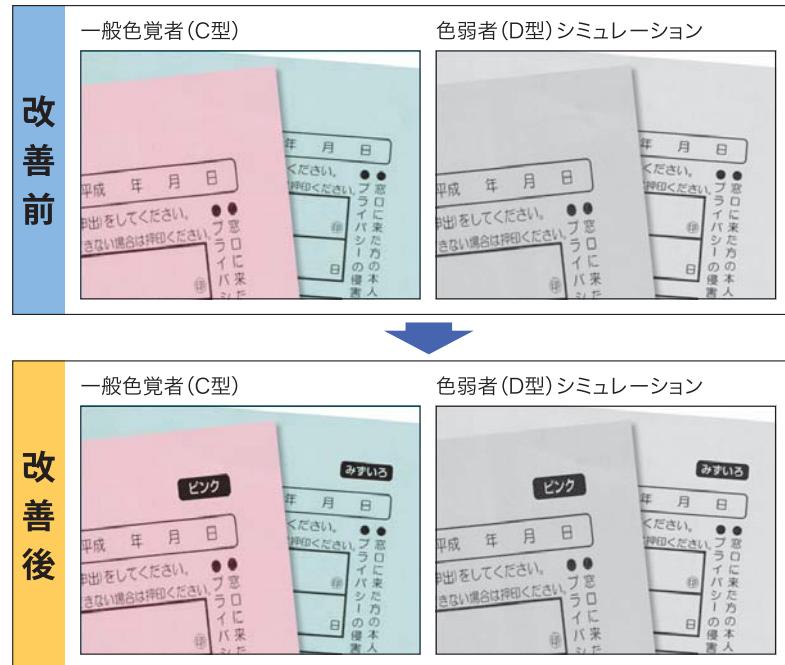


C 色の名前を用いたコミュニケーションを可能にする。

①申請用紙の色分け

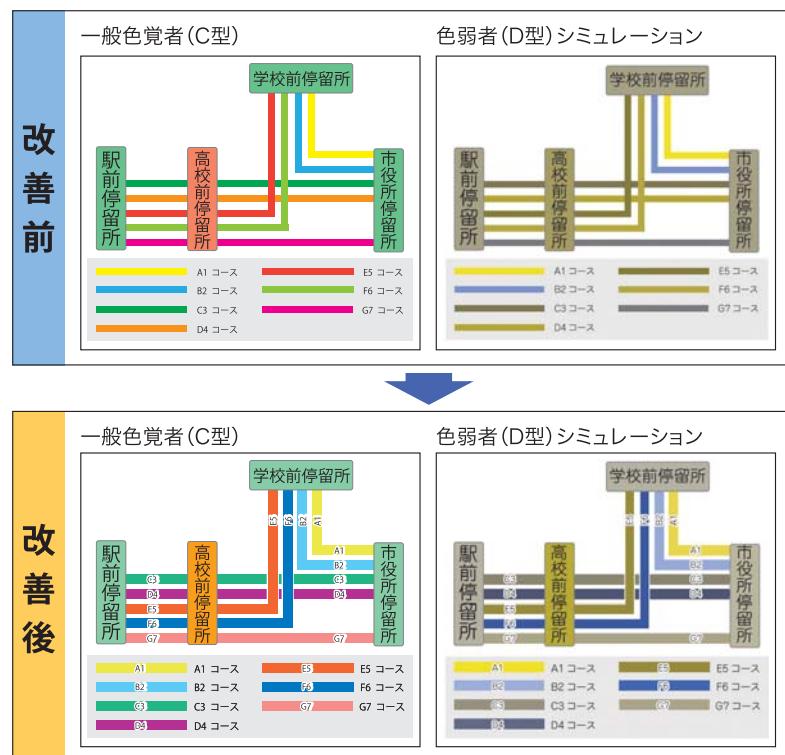
「ピンク色の申請用紙にご記入ください」と指示をされても、色弱者にとっては、どの用紙がピンク色なのかわかりません。

色の名前を用いてやりとりされる可能性があるものには、色の名前を記載し、コミュニケーションを図りやすくします。



②バスの路線図の色分け

「〇〇行きは、橙色のところだよ」と伝えていただいても色弱者には、どの色なのかわかりません。路線番号などが記載してあると、色の名前がわからない場合であっても、コミュニケーションがスムーズになります。



カラーユニバーサルデザインの進め方

Step① 色の感じ方の違いを理解する。

「カラーユニバーサルデザインのチェックツール」などを用いて、身の回りにある生活用品やまちにあるサインや製品などの色づかいを見てみましょう。色の感じ方の違いを理解することは、カラーユニバーサルデザインを取り組む上で重要です。

○色の判別が困難な環境例

- ◆ 対象物が小さい(色の面積が狭い、色文字が細いなど)。
- ◆ 色を見るときの明るさが十分でない。
- ◆ 色を認識する時間が短い。

Step② 「カラーユニバーサルデザインの3つのポイント」に基づいて色を選ぶ。

原案作成などで色づかいを決めるときは、「カラーユニバーサルデザインの3つのポイント」に基づいて色を選びます。色づかいは「カラーユニバーサルデザイン推奨配色セット」を活用するのもよいでしょう。

「カラーユニバーサルデザイン推奨配色セット」については事務局までお問合せ下さい。

見分けにくい色の例

文字の色と背景の色に明暗の差（コントラスト）がないため、色を見分けることができない人がいる可能性があります。文字が読みにくいためには文字が書かれていることに気がつかないといった問題が起きます。



見分けやすい色の例

背景の色と文字の色には、はっきりとした明暗の差（コントラスト）をつけます。暗い色の背景には明るい色を文字に使用し、明るい色の背景には暗い色を文字に使用し組み合わせます。



Step③ 「カラーユニバーサルデザインのチェックツール」などでチェックをする。

用途に合った「カラーユニバーサルデザインのチェックツール」などを用いてチェックを行います。「カラーユニバーサルデザインの実践事例」や巻末の「カラーユニバーサルデザインチェックリスト」を参考に進めるといいでしょう。

カラーユニバーサルデザインの実践事例

事例-1 カレンダー

改善前	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">一般色覚者(C型)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">色弱者(P型) シミュレーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>問題点</p> <p>平日と土日祝祭日を色分けしているカレンダー。 色弱者（P型）は、赤が暗く感じられるため平日の黒と日曜、祝祭日の赤色を見分けられず、祝祭日がいつなのか、わかりません。</p>	一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">一般色覚者(C型)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">色弱者(P型) シミュレーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>改善内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 日曜、祝祭日の赤色に黄色を加えて橙色に近づけた。 数字を太くし、色の面積を広くした。 祝祭日の背景に、薄い色をのせて目立たせた。 	一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション		
一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション										
一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション										

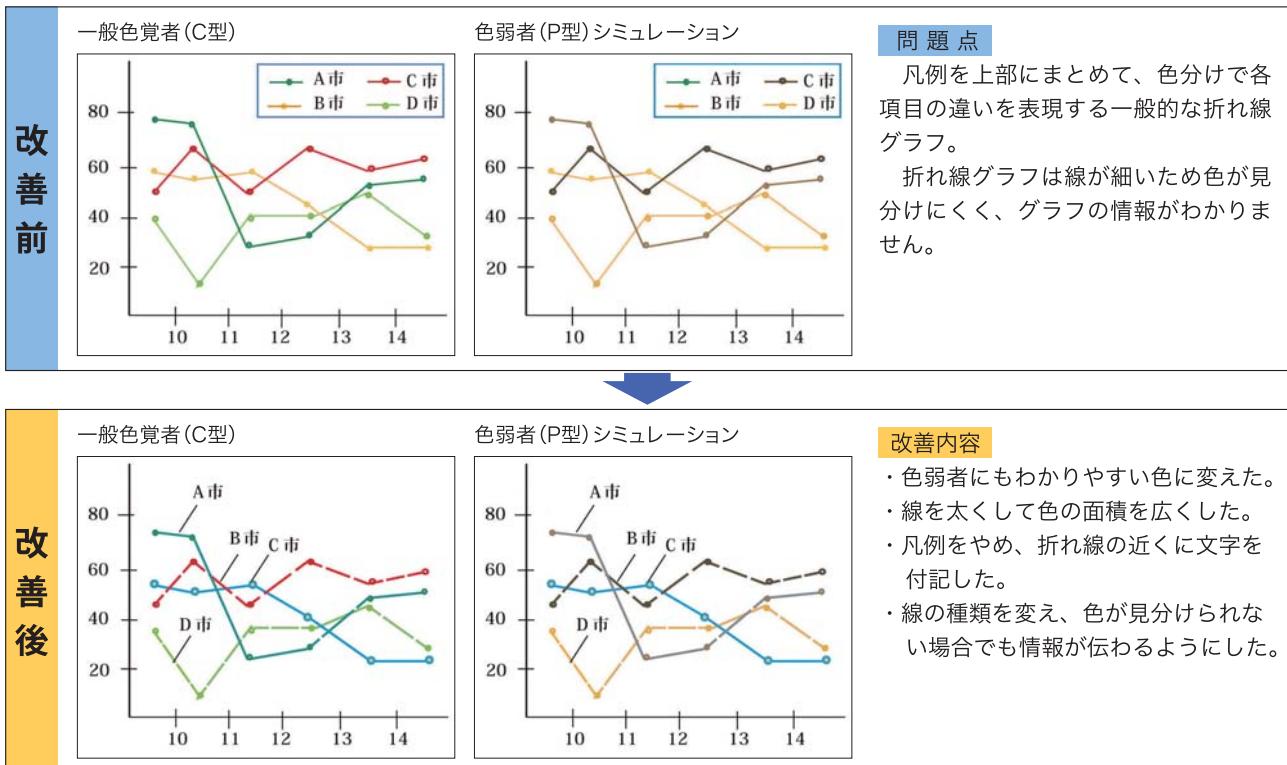
事例-2 組織図

改善前	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">一般色覚者(C型)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">色弱者(P型) シミュレーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>問題点</p> <p>場所、部署、フロアを色分けしている組織図。 場所、部署、凡例の中に同じ色に見える色があるため図の情報がわかりません。</p>	一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">一般色覚者(C型)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">色弱者(P型) シミュレーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>改善内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 色弱者にもわかりやすい色に変えた。 場所と部署を線でつないだ。 凡例をやめ、フロアを直接記載した。 フロアの色分けに加え記号を使用した。 	一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション		
一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション										
一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション										

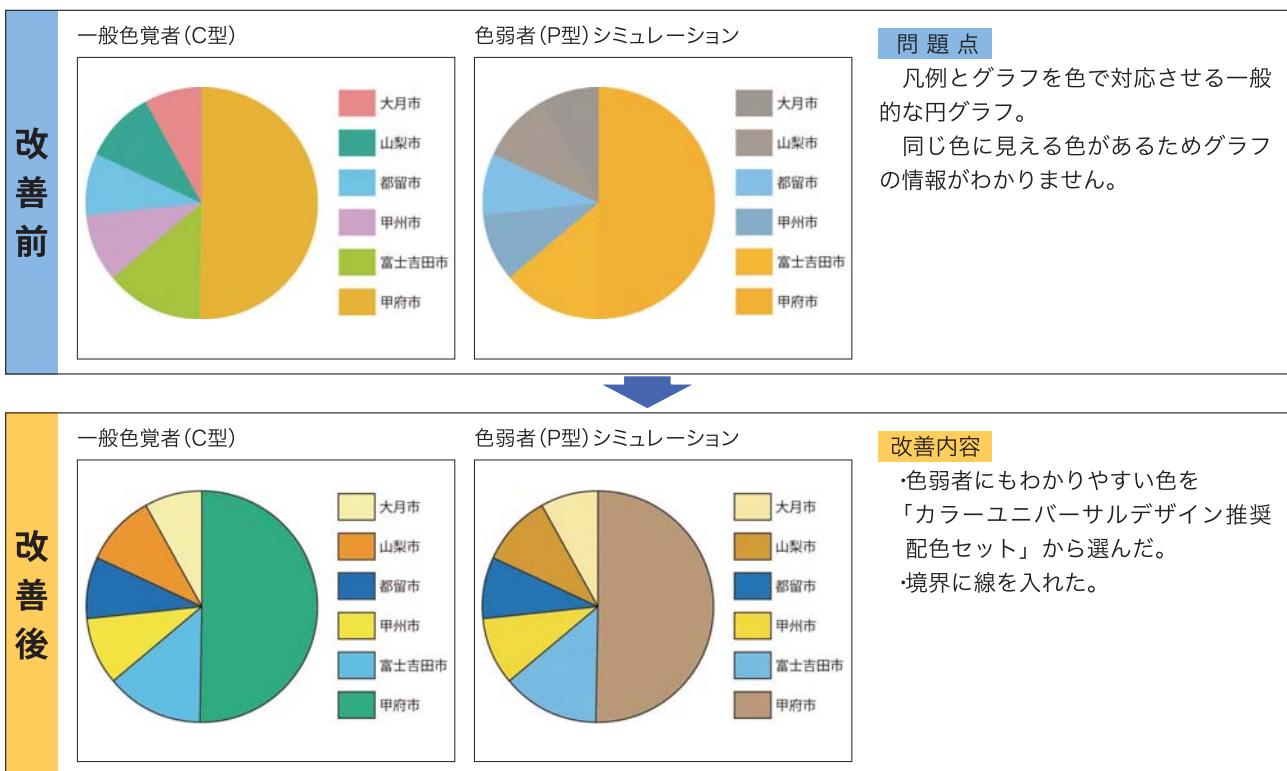
事例-3 表

改善前	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">一般色覚者(C型)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">色弱者(P型) シミュレーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>問題点</p> <p>強調したい部分の色を変えて示している表。 対前月増減のマイナスを赤色で強調しているが、 黒色と同じ色に見えるため強調されていることに気がつかない色弱者がいます。</p>	一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション				<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">一般色覚者(C型)</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">色弱者(P型) シミュレーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>改善内容</p> <ul style="list-style-type: none"> マイナスの数字の色を「赤」から「青」に変えた。 マイナスの書体を太くした。 「-」ではなく「△」にした。 強調表現として背景に薄い色をひいた。 	一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション		
一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション										
一般色覚者(C型)	色弱者(P型) シミュレーション										

事例-4 折れ線グラフ



事例-5 円グラフ



事例-6 地図

改善前

一般色覚者(C型)

色弱者(P型) シミュレーション

問題点

建物、道路、凡例などを色分けする一般的な駅周辺 MAP。

見分けられない色があるため駅周辺の情報がわかりにくい。

改善後

一般色覚者(C型)

色弱者(P型) シミュレーション

改善内容

- ・色相だけに頼らず、明暗の差(コントラスト)をつけて表現した。※色相は赤・橙・緑・青・紫といった色合いのこと。
- ・背景の色に対して、文字やピクトグラムを見分けられる色に変え、白色のフチを入れた。

事例-7 会場案内図

改善前

一般色覚者(C型)

色弱者(P型) シミュレーション

問題点

出展物をカテゴリー別に色分けし、出展場所を色で指し示す案内図。

カテゴリーの色分けの中に同じ色に見える色があるため会場の情報がわかりません。

トイレの男女のピクトマークが同じ色に見えるため、急いでいるときは、間違えてしまうことがある。

改善後

一般色覚者(C型)

色弱者(P型) シミュレーション

改善内容

色弱者にとってわかりやすい色にえた。

カテゴリー別にマークを入れ、情報を正確に受け取りやすくした。

事例-8 立入禁止看板

改善前	一般色覚者(C型) 	色弱者(P型)シミュレーション 	問題点 赤色で注意を促す看板。赤色は黒色と同じ色に見えるため看板が目立たず、特に暗い背景の場合は文字に気がつかないこともあります。 生命に関わることもあるので、十分な配慮が不可欠です。
	関係者以外 立入禁止	関係者以外 立入禁止	
			↓
改善後	一般色覚者(C型) 	色弱者(P型)シミュレーション 	改善内容 ・赤色をオレンジ色に変えた。 ・ピクトグラムと立入禁止の文字に白色のフチを入れた。
関係者以外 立入禁止	関係者以外 立入禁止		

事例-9 LED

改善前	一般色覚者(C型) 	色弱者(P型)シミュレーション 	問題点 黒い背景に重要な情報を赤色のLEDで表示する電子掲示板。 赤い部分は暗く感じられるため、数字や文字が読みにくくなります。 ランプが点いていることに気がつかない場合もあります。
	只今の受け付け番号 566	只今の受け付け番号 566	
			↓
改善後	一般色覚者(C型) 	色弱者(P型)シミュレーション 	改善内容 ・数字のLEDの色を青に変えた。
27 408 28	27 408 28		

カラーユニバーサルデザインチェックリスト

◆ 基本となる考え方

- 記載されている内容（情報）を白黒にしても正確に理解できるようにする。
- 色の違いただけでなく、明度（明るさ）や彩度（鮮やかさ）の違いや、書体（フォント）、太字、傍点、下線、囲み枠、形状の違い、文字や記号の併用など、色に頼らなくても情報が得られるように工夫する。
- 線や文字に色をつけるときは、色の区別がつきやすいように色の面積をできるだけ広くする。（太文字、大きい文字）
- 色の名前を用いてコミュニケーションが行われる可能性がある場合は、色の名前を記載する。

◆ 色の選び方・組み合わせ方

- 彩度の低いパステル調の色同士を組み合わせない。
- 背景と文字にははっきりとした明暗の差（コントラスト）をつける。
- 白い背景の上の細い線や文字には「黄色」や「水色」を使用しない。
- 「濃い赤」は「黒」や「こげ茶色」と見分けにくい。「赤」と「黒」を組み合わせる場合は、濃い赤ではなく「赤橙」を使用する。「濃い赤」を使用したい場合は、黒ではなく「明るい灰色」や「青」などを使用する。
- 「暗い緑」は「赤」や「茶色」と見分けにくい。「赤」や「茶色」と見分けやすくするためにには、緑を「明るい緑」や「青みの緑」にすると見分けやすくなる。
- 「黄緑」は「黄色」と見分けにくいので、一緒に使用するときは濃淡・明暗の差をつける。
- 「明るい黄色」は、白内障の人には「白」や「クリーム色」と見分けにくいので、背景と文字の色を選ぶときは一緒に使用しない。
- 「黒」「青」「緑」色の背景の上に、赤で書かれた文字をのせると文字が非常に読みにくい。背景の色を変えられない場合は、文字色を「白」「黄色」「クリーム色」などにする。

◆ 色以外の工夫

- 色の塗り分けには、色以外にハッチング（模様）等を併用する。
- 色の塗り分けの境は、細い黒線や白抜きの輪郭線を入れて、色同士を見分けやすくする。
- 図やグラフなどの線を色で区別する場合は、実線、破線など線種を変えたり、太さを変えるなど工夫する。